

## 平成29年度 岐阜県立東濃高等学校「学校評価アンケート」の結果

### 【アンケート結果の表記方法】

- ①生徒：肯定的な回答 A 及び B と否定的な回答 C と D が 50%以上、わからないの回答 E が 25%以上を網掛けで示した。
- ②保護者等：肯定的な回答 2/3 以上（67%）と、否定的な回答 C 及び D 1/3（33%）以上、わからないの回答 E が 1/4（25%）以上を網掛けで示した。

### 1 アンケート結果より（生徒）

全体的には各評価項目に対して、A「よくあてはまる」B「ややあてはまる」と肯定的な回答をした生徒が多くいた。評価項目が全部で 38 項目あるなかで 8, 9 の項目で A と B の肯定的な回答が 50%を下回った。しかし、この結果は、否定的な回答が多いのではなく、E「わからない」とした生徒が多くいたためと考えられるものである。

平成 28 年度や過去の結果等と平成 29 年度の集計結果を比較し、分析すると次のような成果と課題が考えられる。

（課題）

- 評価項目 (8,9) 項目 8「本校は保護者の悩みや相談に適切に対応してくれる。」、項目 9「本校はホームページを用いて、保護者（地域）へ様々な情報を速やかに伝えている。」（項目 8：A と B 46%、項目 9：A と B 47%）

上記項目に関しては、保護者に対する内容としての部分が多いためか、平成 28 年度以前のデータと比較しても、相対的に低い値となる傾向が高いようである。また、この項目における「わからない」の回答 E が増加していることも関係し、A と B の肯定的な回答が 50%を下回ったと考えられる。今後は、保護者に対する取組や地域の情報等について、学校からの情報発信力の強化を行い、生徒への情報の「見える化」を推進する。

- 評価項目 (5,7,8,9) の家庭との連携に関する 4 項目について（E：25%以上のもの）

平成 28 年度と比較すると、項目 (5,7,8,9) だけでなく、家庭との連携に関する、その他の項目についても「わからない」の回答 E が増加している。

学校から発信している家庭への連絡や案内については、例年と数量・内容の両面とも差異はほとんど無いことより、今後は家庭内でのコミュニケーションが円滑に進むように、生徒に対して、配布プリントや配信メールについての重要ポイント等の解説を行い、かみ砕いた後、発信するように取り組む。

学年で見ると、特に 1 年生が E と回答をしている生徒が多いことより、家庭への連絡内容の確認並びに事前解説を重点的に行い、学校からの周知徹底を図る。

特に、1 年生は、中学校の「学び直し」も含めて、高校生活における基礎的な生活習慣の確立のために、家庭における報告・連絡・相談等を疎かにしないように指導していく必要があると考える。また、学校行事や学校生活、地域活動等についての家庭内コミュニケーション力が、高まれば生徒の進路指導や学習指導等にも好影響が確実に現れるとも考える。

そして、常日頃から、教師が三者懇談や電話連絡等を活用し、生徒の様子について気になることだけでなく、生徒の良さや優れた点を連絡することを行い、特に心配な場合には家庭訪問を行うなど、常日頃から保護者・生徒との信頼関係づくりに、全職員が情報を共有し、共通理解のうえ家庭との連携に取り組んでいく。

- 評価項目 (21)「本校は体罰の防止に努めている。」（E：25%以上のもの）

肯定的な意見は 50%を超えてはいるが、「わからない」の回答 E が 26%と多い。

学校として、体罰の無い適正な生徒指導に取り組んでいる実態と、どの学年でも、どの生徒にも、生徒一人一人の生活環境の変化や日頃の動向、対人関係、生徒集団等に広くアンテナを張り生徒理解に努めていることや、日々の啓発活動に取り組む実践を、より明確に前面に押し出すことで、職員の共通理解のもと教育相談に重点を置いた生徒指導に、さらに取り組んでいく。

また、現在の生徒達の様子を伝えたり資料を配布したりするなどの情報発信に努め、常日頃から保護者との連絡を密にすることを通じて、生徒と保護者に対する信頼関係を築いていくことに、よりいっそう努める。

●評価項目 (28)「本校では、部活動が活発に行われている。」(A と B58%)

平成 27 年度この評価項目の A と B が 39%と低い回答であったが、平成 28 年度 59%、平成 29 年度 58%とポイントは上がった。しかし、積極的に参加できない生徒、途中でやめてしまう生徒や、何も所属しない生徒も多いことから、強い意志をもって活動する生徒が少ないのが現状である。こうした実態を少しでも打破し、部活動への生徒の積極的・主体的な加入や参加を促し、学校の活性化に繋がりたいと考える。

平成 29 年度の結果としては、ウエイトリフティング競技で全国大会出場 (5 位)、ロボコン部も全国大会出場などと大変活躍した生徒も出ている。

また、野球部では本校 OB の水野高志さんの協力により、元 PL 学野球部園監督の中村順司先生の指導をして頂いたこともあり、今年度も夏の県大会に東濃高校単独チームとして出場することができた。さらに、ソフトテニス部、卓球部、バレー部、バスケット部など毎日継続した練習ができた力をつけてきている部もあり今後について非常に楽しみである。

(成 果)

○評価項目 (24)「本校は、生徒の安全・衛生面に配慮し、交通事故や不審者対応など安全指導をしている。」(A と B : 72%)

生徒の健康・安全に関しては、学校保健計画・学校安全計画を組織として系統的・体系的に整え、生徒の生命を尊重し、食育を含め体力の向上指導並びに心身の健康の保持増進に教科横断的に取り組んでいる。

また、交通事故・不審者対応、非常変災時におけるリスクマネジメントに対する安全教育を、日々実践している。以上の点から本年度も高い肯定的意見が得られたと考える。

今後は、東海・南海・東南海地震や他の自然災害からの危険回避 (評価項目 25) も含め、学校教育活動全体において安全で安心な者会づくりに貢献できる生徒の育成に取り組む。

○評価項目 (34)「本校は、地域と連携した活動に取り組んでいる。」(MS リーダーズ活動、御嵩町の行事参加、願興寺清掃等のボランティア活動など) (A と B : 77%)

生徒会が中心となって実施している MS リーダーズ活動、願興寺清掃活動では、部活動単位での参加やボランティアで参加する生徒が、年を追うごとに増えている。また、地域行事などにも積極的に参加し活躍する生徒も多くなり、学校として地域のコミュニティスクールとしての貢献活動ができていないのではないかと考える。今後もリーダーとなって活躍している生徒の育成に継続して取り組みたい。

○評価項目 (35)「本校は、「あいさつ・時間を守る・身なりを整える」指導に取り組んでいる。」(A と B : 71%)

全職員の共通理解のもと、学校生活だけでなく社会人としての基本ともなる「あじみ」ができる生徒を育成し、社会における規範意識並びに学業の向上を目指す。

「あじみ」ができる生徒の育成こそが本校の教育の根幹となると取り組んでいる内容であり、現在、それが生徒に浸透しつつあると感じる。今後も現状に満足することなく指導を継続する。

○評価項目 (36)「本校は、外国人生徒の学習支援に力を入れている。」(A と B : 72%)

基礎的な学習内容から日本語の教育まで丁寧な授業が進められていることで、授業内容を理解できる生徒の割合が年々多くなってきていることで、肯定的な回答が多かったと考える。

上級生になれば当然授業内容も難しくなるため、基礎的な学力が定着していないと授業での内容が理解できないという状況になってしまう。その点を配慮しつつ、かつ妥協することなく学習に取り組ませている。個別対応も含め、どの生徒にも分かる授業の工夫など、生徒一人一人の学力向上のために実践を進めている。今後、さらに継続してこつこつと学習に取り組むことができる外国人生徒の姿を願って、学習週間の充実、家庭学習の指導など生徒の

学力向上のための取り組みに努めていきたいと考える。

## 2 アンケート結果より（保護者・学校評議員）

評価項目 39 のうち平成 28 年度に 5 項目が肯定的な回答 2/3(67%)を得ることができなかったのに対し、平成 29 年度では 1 項目（項目 29）だけとなった。また、評価項目の 5 項目については肯定的な回答を 90%以上頂くことができた。以上のことから保護者等の方々の学校の教育活動に対する理解を十分に感じられる結果となった。

〈課題〉

### ●評価項目 (28)「本校では、部活動が活発に行われている。」(A と B : 59%)

上記の項目については、平成 28 年度の A と B の合計が 60%、平成 29 年度の A と B の合計が 59%と肯定的な回答が得られない状況となっている。保護者や地域の方々が来校される機会をとらえて現在の部活動の成果伝えたり、生徒の様子を話したり、資料を配布するなどの情報発信に努める。そして、常日頃から保護者との連絡を密にするなどして対応し、さらなる信頼関係を築いていくことに努める。

また、平成 30 年度入試よりのロボコン部を対象とした県外生徒への対応並びに体育的・文化的活動を対象とする独自検査を含む選抜等も加味し、部活動への生徒の積極的・主体的な加入や参加を促し、学校の活性化に大いに繋げたいと考える。

平成 29 年度の結果としては、ウエイトリフティング競技で全国大会出場（5 位）、ロボコン部も全国大会出場などと大変活躍した生徒も出ていることや、本校 OB の水野高志さんの協力により、元 PL 学野球部園監督の中村順司先生の指導をして頂いたことなど地域やその他多くの方の支援内容なども含め広報活動に努めるとともに地域へのアピールも実施する。

〈成果〉

○評価項目 (2)「学校は、教育目標である「知・徳・体の調和の取れた将来有為な人材を育成する」が達成できるように努力している。」(A と B : 91%)

○評価項目 (4)「単に学力だけでなく、健全な身体、豊かな心も含めた人間を育成しようとする校風が感じられる。」(A と B : 90%)

○評価項目 (13)「学校を訪問したり、電話した時の学校職員の対応（明るい挨拶や丁寧な話し方）が、適切である。」(A と B : 95%)

項目(2, 4)は教育方針・学校経営に関わる項目で、項目(13)については教職員の外部への対応についての項目となっている。学校の根幹となるこれらの項目に対して、平成 28 年度も肯定的な評価のポイント（項目 2 : 81%、項目 4 : 81%、項目 13 : 90%）が高かったが、今年度はさらに肯定的な評価のポイントが上昇している。

以上のデータからも、学校の生徒に対する働きかけや指導・支援の在り方並びに外部対応について、学校組織として職員が一体となり共通理解・共通認識・共通指導のもと着実な成果を上げつつあることが、評価されているもだと考える。

また、これらの項目について高評価を受けている他の要因としては、PTAの役員の方を中心に学校行事への理解と非常に多くの協力や支援を頂いていることや、学校行事を参観して頂ける保護者が年々増加し、生徒の良さや生徒の取組を直に感じることを通して生徒の成長の過程を評価していることも考えられる。

今後も学校での生徒の様子を情報発信しながら学校行事への理解と協力を依頼するとともに取組の過程を大切にされた指導を行い生徒一人一人の成長に繋げていく。

○評価項目 (35)「本校は、地域と連携した活動に取り組んでいる。」(MS リーダーズ活動、御嵩町の行事参加、願興寺清掃等のボランティア活動など) (A と B : 93%)

○評価項目 (36)「本校は、「あいさつ・時間を守る・身なりを整える」指導に取り組んでいる。」(A と B : 93%)

項目(35, 36)ともに学校独自項目である。これらの項目は平成 28 年度も肯定的な評価のポイント（項目 35 : 82%、項目 36 : 87%）が高かったが、今年度はさらに肯定的な評価のポイントが 90%以上と上昇している。

これらの項目が高評価を受けている理由としては、御嵩町役場、縁塾（NPO 法人）、可児市多文化共生センターフレビア並びに大変多くの地域の方々の協力のもと、非常に大きな支援が頂けたことが上げられる。また、平成 29 年度は生徒会が中心となって実施している MS リーダーズの参加や部活動単位での参加、ボランティアで参加する生徒の人数が多くなり、学校として地域のコミュニティスクールとしての活動に貢献することができているのではないかと考える。

授業においても地域の産業や観光・地域の地理や歴史に関する授業で講師をして頂き、御嵩町地域の文化や歴史について生徒が知識を深めることができたり、御嵩町防災コミュニティセンターで開催された「高校生のための防災講座」に本校 15 名の生徒が参加し、災害について学び、考え、備えるための学習をすることで、地域の安全を守る意識を高めたりすることができました。

今後も、地域のリーダーとなって活躍していける生徒の育成のため、社会的規範意識の向上の指導とともに地域や諸機関と連携した取組を継続して行う。